

企業で活躍するアビリティ訓練「テクニカルメタルワーク科」修了生

【修了生の声】

～溶接作業を担当できるのも、テクニカルメタルワーク科の訓練で

基礎技能、知識の習得、そして資格を取得できたおかげだと思います。～

【株式会社藤岡組 高橋 マリ子 さま】

(テクニカルメタルワーク科修了生 平成20年3月修了)

私の前職はサービス業でしたが、それ以前の仕事で造船の仕事に就いていた経験があります。「ものづくり」が好きだったということも有り、転職をする際は、再び造船の仕事に就きたいと考えていました。そこで、広島センターのテクニカルメタルワーク科で「溶接」について基本から勉強しようと思い応募しました。

6ヶ月の訓練を振り返ってみて、被覆アーク溶接、半自動アーク溶接、TIG溶接など、溶接に必要な知識や基礎技能を習得すると共に、「ものづくり」に必要な金属加工の基礎、図面の読み方などを学び、そして、金属加工作業に関連する特別教育や技能講習といった資格を取得したことが今でも役に立っています。

訓練期間中に溶接技能者評価試験を受験し、被覆アーク溶接、半自動アーク溶接の資格を取得したおかげで、造船会社の(株)藤岡組に入社することができ、そろそろ3年が経過します。訓練期間中に得た資格を生かし、現在は、船体ブロック小組立の溶接作業を主に担当しています。

溶接作業を担当できるのも、テクニカルメタルワーク科の訓練で基礎技能、知識の習得、そして資格を取得できたおかげだと思います。ものづくりに携わる仕事ができているのが良かったと感じています。

今後も、訓練での経験を活かし、仕事を高品質かつ短納期で作業を行えるように、知識、技能を更に向上させながら頑張っていきたいと思っています。

【事業主の声】

～今後も、向上心とやる気、根気を持った人材を

紹介して欲しいと考えています。～

【株式会社藤岡組 代表取締役 藤岡 泰任 さん】

当社は、新来島どつくグループの一員である、新来島宇品どつくの各種船舶の製造及び修理等の仕事を受注し、主には新造船の船体ブロック組立や船舶の修繕を行っている企業です。

大きい船を造る際は、一隻をブロック単位で分割し、小組立、中組立、大組立の様に工程を進めていきます。材料のガス・プラズマ切断、溶接、サンダー研磨による仕上げ等の作業を行い、造られたブロックを組み合わせることで最終的に一隻の船が完成するという仕組みになっています。

当社の仕事は、船を作る上で重要になる、ブロック組立作業を主に行っています。それ以外にも、実際に運航した各種船舶の検査、修理、改造等の修繕作業も行っております。

造船各社の多様化するニーズに応えると共に、高品質と納期を維持し、お客様に満足していただける仕事を心掛けております。

広島センターの修了生は、未経験者と比べて、仕事に必要な溶接関連の資格や基礎技能、知識を習得し、ものづくりの基礎も訓練で学んでいるので、ものづくりに対する興味、やる気を持っている人が多く、短期間で戦力になってくれます。

現在、当社で働いている修了生は4名います。それぞれ違う仕事を担当しながら頑張ってくれています。小組の隅肉溶接、大組の本溶接、修繕、サンダーによる研磨仕上げの様に分かれ、担当している仕事を的確に行いながら、それぞれの職場で活躍しています。

今後も、向上心とやる気、根気を持った人材を紹介して欲しいと考えています。



右が高橋さん、左は平成22年6月に修了した安友さん(社内の食堂にて)